

東京都福祉サービス第三者評価 評価結果

評価結果基本情報

評価年度	令和5年度
サービス名称	認可保育所
法人名称	学校法人三浦学園
事業所名称	品川学藝保育園
評価機関名称	株式会社 学研データサービス

コメント

第三者評価を行うにあたり、自己評価や利用者アンケート調査の結果のほか、事前資料や訪問調査当日の書類確認など、多角的な情報収集を行いました。訪問調査には保育園の調査経験が豊富な評価者を派遣し、園内見学、保育場面の観察、経営層からのヒアリング、書類確認などを実施しました。

利用者アンケート調査と職員自己評価の集計は、保育と集計処理に精通した評価機関の事務局が担当し、自由意見は個人が特定されないように注意して加工しました。

報告書の内容については、客観性を確保するため事務局内で複数回校正を行いました。

(内容)

- I 事業者の理念・方針、期待する職員像
- II 全体の評価講評
- III 事業者が特に力を入れている取り組み
- IV 利用者調査結果
- V 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）
- VI サービス提供のプロセス項目

公益財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

I 事業者の理念・方針、期待する職員像

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など） 1)園目標をもとに、子どもが心身ともに健やかに過ごせる保育を実践し、十分遊びこめる環境を作ります。2)一人ひとりのあるがままの姿を受け止め、愛着関係を築き、丁寧な保育を行います。3)子ども、大人が共にほっと出来る「第2のお家」となる保育園を目指します。4)本法人の併設校である有明教育芸術短期大学をはじめとする保育士養成校や品川学藝高等学校幼児教育コースの実習園としての役割を担います。5)本法人の併設校である品川学藝幼稚園や近隣の保育園と連携を図り、地域のニーズに応えます。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	(1) 職員に求めている人材像や役割 本園の理念や方針に従い、1.子どもの利益を最優先として、子どものあるがままの姿を受け止め、子どものよき理解者となり保育をしていきます。2.保護者と子育ての楽しさや苦勞を共有し、保護者の立場に寄り添う子育て支援を行います。3.職員のそれぞれの役割や立場を理解し、チームワークを大切に責任をもって職務を遂行します。4.品川学藝幼稚園や近隣の保育園等と交流を深め、地域の子育て支援に協力することを望んでいます。
	(2) 職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 1.子どもの命と人権を守り、人生の基礎となる乳児期に温かく愛情豊かな保育をする。2.専門的な知識と向上心を持ち、職務にあたる。3.保護者や職員と円滑なコミュニケーションを図ることが出来る。

II 全体の評価講評

全体の評価講評

特に良いと思う点

1	<p>園では「第二のおうち」「目指すあいうえお」を大切に、小規模保育施設の特性を生かした丁寧な保育を実践しています</p> <p>0～2歳児を預かる認可保育園として、小規模園の特性を生かした家庭的な雰囲気と丁寧な保育を大切にしています。園の思いである「第二のおうち」「園が目指すあいうえお」は刷新したサイトのトップページにも掲載しています。愛情、意欲、美しい言葉、笑顔、思いやりの5つを示し、豊かな感性と愛情を持って一人ひとりの子どもと関わっていくことを明示しています。職員の入れ替えも少なくベテラン職員による保育を行う中で、子どもたちを温かく見守りながら自立に向けた適切な指導、遊びの展開及び充実を目指し、さまざまな活動を実践しています。</p>
2	<p>学生・生徒との触れ合いや近隣園との交流保育を進め、職員以外の人々や地域資源を積極的に保育に取り入れています</p> <p>製作や英語、読み聞かせは、年間を通して外部の指導者などを招いて行う保育活動として定着しています。また、近隣園との交流保育を導入し、他園で遊ぶ経験が子どもたちの生活を豊かにするとともに、物おじせずにご過ごす成果も期待できます。昨年度と同様に製作遊びの講師も同行し、他園の子どもたちと一緒に製作を楽しむ機会も予定しています。一方、職員も当該園との交流研修を通して保育環境などを学んでいます。このほか法人内の教育機関の学生、生徒たちと日常的な交流を持つなど、地域資源や園以外の人々を積極的に保育活動に取り込んでいます。</p>
3	<p>小人数ならではの子どもへの丁寧な対応や目の行き届きやすさ、多様な保育活動は保護者からも満足の声が上がっています</p> <p>子ども一人ひとりを尊重した丁寧な対応をはじめ、「べんちゃんとおそぼう」「英語であそぼう」などの保育活動、他園との交流保育、系列高校の校庭や公園での外遊びなどは保護者にも好評です。こうした子どもへの対応や保育内容のみならず、保護者の気持ちに寄り添う園の姿勢、及び関係性を大切にする園の思いは、保護者にも伝わっています。今回の利用者調査では保護者からの高い評価が得られ、相談しやすい園の雰囲気をはじめ、職員間の良好な関係性や仲の良さはもとより、情報共有の徹底ぶりなど、園の取り組みにも称賛の声が上がっています。</p>

さらなる改善が望まれる点

1	<p>中期計画の内容を充実し、それに伴い当該年度の事業計画をより実効性のあるものにすることが期待されます</p> <p>3年間の中期計画を策定し、中期・長期の各計画を踏まえた単年度計画を策定しています。中期計画には、各課題と現状、課題達成のための取り組み方針を明示しています。中期計画は、長期的に安定した事業運営を実現するための骨組みとなるものです。今後は、課題と主な取り組みに加え、課題達成に向けたフェーズごとの取り組む時期を明示することが望まれます。単年度計画は中期計画のフェーズに基づき、当該年度の重点課題を意識した内容にすると良いでしょう。そのようにすることで、中期計画と連動したより実効性のある事業計画となるでしょう。</p>
2	<p>園全体で事業継続計画への理解を深めるとともに、保護者及び関係者と一体になって取り組める体制整備が望まれます</p> <p>リスク管理への意識が高く、事業継続計画（BCP）を、感染症・食中毒編、地震・風水害編のそれぞれについて策定しています。BCPには想定される被害、初動対応、BCP発動基準、BCP解除基準について具体的に明示し、事前対策及び被害発生後の流れが示されています。今後は、職員一人ひとりが理解を深め、それぞれが役割意識をもって動けるよう検討すると良いでしょう。その上でさらに、事業継続計画を保護者会や消防署などの地域関係機関に広く周知し、保護者や専門機関の意見も踏まえ、協働して取り組める体制を整えることが期待されます。</p>
3	<p>キャリアパスの明示と、キャリアパスと連動した体系的な人材育成計画の策定、職員一人ひとりの個人別育成計画の充実を期待します</p> <p>「職員像および職員育成方針」として、求める職員像に導くための研修と、各職位に期待する役割水準を明示しています。今後はこれをさらに充実させ、キャリアパスとして確立することが期待されます。具体的には職員が、入職から退職まで自身の長期的なキャリアパスを見通せるよう、昇格にかかる平均的な年数や職層ごとの賃金水準、昇格するために求められるスキル水準を明示すると良いでしょう。また、キャリアパスを実現し、園が理想とする人員体制を実現するための体系的な人材育成計画の策定と、各職員の「個人目標計画票」の充実が望まれます。</p>

Ⅲ 事業者が特に力を入れている取り組み

1	<p>★ ホームページをリニューアルし、保護者の利便性アップと業務の効率化につなげています</p> <p>今年度の園名変更に伴い、昨年度ホームページをリニューアルしました。園が目指す温かい「第二のおうち」のイメージが伝わるよう、色合いやデザインの工夫、園や子どもたちたちの様子を伝える写真を多く掲載しています。ホームページをリニューアルしたことで、園見学の申し込みや問い合わせが増え、ホームページが、地域の人たちに園を知ってもらうきっかけになっていることを実感する機会となりました。また、保護者や見学者が、必要な書類のダウンロード及び問い合わせができるようにするなど、利便性アップと業務の効率化にもつなげています。</p>
<p>関連評価項目(透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる)</p>	
2	<p>★ 安全への意識をさらに高め、新たに事故防止マニュアルを作成しています</p> <p>各室内と各公園など、園内外それぞれのヒヤリハットマップを作成しています。各箇所を写真に撮り、例えば公園内など、低年齢の子どもにはやや危険と思われる箇所や配慮点をコメントで書き込んでいます。加えて今年度は事故防止など危機管理のマニュアルを新たに作成し、保育の安全に対する意識を園全体で高めています。今後は数年前に作成したヒヤリハットマップの見直しと、職員のマニュアルへのさらなる浸透を課題としています。また、他園での離乳食における事故報道などを受け、事例から学び合う機会も園長は取り入れていきたいと考えています。</p>
<p>関連評価項目(事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる)</p>	
3	<p>★ 保育書類の改善などを図り、業務の効率化と職員の負担軽減に向けて取り組んでいます</p> <p>長期・短期それぞれの視点で保育計画を整理し、月案は個別計画のみとし、クラス全体の具体的な計画は週案へと落とし込むよう改めています。さらに重複の記載を回避すべく、家庭との連絡帳と日々の個人記録の見直し、育ちの記録についても改善を図っています。また、コロナ禍における行事の見直しをきっかけとし、例えばオペラやピアノなど本物に触れる機会としていた「小さな音楽会」は、普段の音楽遊びの様子をってもらう機会に変更しています。こうした業務効率化と職員の負担軽減への取り組みが、ひいては日常の保育の質向上につながっています。</p>
<p>関連評価項目(サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている)</p>	

IV 利用者調査結果

調査概要

調査対象： 保育園を利用している19世帯を対象に調査を実施しました。在園児は21名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。

調査方法：アンケート方式

アンケート調査は無記名方式で、配付は施設を通じて利用者へ手渡し、回収は利用者から直接評価機関へ郵送する方法により実施しました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、施設に報告しました。

利用者総数	21人
利用者家族総数（世帯）	19世帯
アンケートや聞き取りを行った人数	19人
有効回答者数	18人
回答者割合（%）	94.7%

総括

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が12人（66.7%）、「満足」が6人（33.3%）で「満足」以上の回答は合計18人（100%）でした。自由意見には、「子どもたち一人ひとりのことを、職員の皆さん全員がしっかりと見てくれていると感じています」「報連相がとて徹底されていると感じ、情報共有が素晴らしいです」「アットホームで仲良くなりやすい環境です」「経営層の人柄、考え方、方針がしっかりと根づいている園だと思います」「いろいろと柔軟に対応をしてくださいます」「こちらの保育園に入園することができて、この園に出会うことができて、本当に良かったです」「近くに系列の幼稚園や高校があるので、そこの校庭やホールが使えます」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」「保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか」「施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか」で100.0%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。

利用者調査結果

1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか							
はい	18人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が100.0%でした。自由意見には、「生き物と触れ合ったり、友達と体を動かしたりして、できる事も増えました」「家ではできないことを体験したり、お友達とも遊べたり、とても役立っています」「なかなかできない遊びなどをしてくださるので、子どもの好奇心もぐんぐん育っている気がします」「子ども一人ひとりに合わせた保育を行ってくださっています」などの声がありました。							
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか							
はい	18人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が100.0%でした。自由意見には、「写真の掲示物を見ても、楽しそうに笑って取り組んでいる様子です」「興味を持てるように、いろいろな工夫をしてもらっています」「保育園だけでなく、8号館や校庭などで、飽きずに遊べて楽しそうです」「子どもたちの気持ちに寄り添って、やりたくないことやしたいことを確認してくださり、楽しく過ごせるよう少しでも興味を持てるようにしてくださっていると思います」などの声がありました。							
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか							
はい	16人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%でした。自由意見には、「愛情込めて作られています」「調理室内もよく見え、毎日挨拶するのを子どもも楽しみにしています」「朝から、だしや食材の良い匂いがしていて、とてもおいしそうです」「昼食もおやつも全て手作りで、安心と愛情を感じます」「給食が手作りで、栄養バランスがしっかりしています」などの声がありました。							
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか							
はい	18人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が100.0%でした。自由意見には、「虫や葉っぱ、花など触れる機会も多く、外部の方に教えてもらうこともあります」「敷地も狭い中、ベランダで水浴び、野菜作りなどをできるよう工夫されており、猛暑で外出できないながら、自然に触れ合う工夫はされていると思いました」「高校の校庭を使用でき、近くの保育園との交流などをたくさんしてくれて、のびのびと遊んでいます」「たまに系列校の高校生が実習で遊んでくれます」などの声がありました。							
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか							
はい	16人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	2人
「はい」が88.9%、「無回答・非該当」が11.1%でした。自由意見には、「急な時でも軽食を出してくれたりして、対応をしてくれます」などの声がありました。							
6. 安全対策が十分取られていると思うか							
はい	16人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人

「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%でした。自由意見には、「日ごろ、子どもが安全に過ごせるよう配慮をしてくださっているので、感謝しています」などの声がありました。

7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か

はい	17人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が94.4%、「どちらともいえない」が5.6%でした。自由意見には、「夕方や土曜などに設定されるので、参加しやすいです」「行事は少ないので、仕事している保護者は大変助かると感じます」などの声がありました。

8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか

はい	16人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%でした。自由意見には、「家や園での様子を伝え合い、相談をすることができます」「少人数なので保育士さんの目が届きやすく、みんなが子どもの名前もしっかり覚えてくれていて、安心して預けられます」「話しやすい雰囲気、日ごろの育児の悩みも気軽に相談できます」「先生方もすごく優しく頼もしく、いつも笑顔で信頼できる方々ばかりです」などの声がありました。

9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか

はい	18人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が100.0%でした。自由意見には、「毎日、掃除をさせていただいているところを見かけます」「とても清潔にされています」「古い建物ですが、清潔です」などの声がありました。

10. 職員の接遇・態度は適切か

はい	17人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が94.4%、「どちらともいえない」が5.6%でした。自由意見には、「どの保護者、子どもに対しても、明るく親切に対応をいただいています」「入園後すぐに、子どもの名前や保護者の顔を覚えてくれて、嬉しかったです」「先生も職員のみなさんもとても親切で、できる限り私たちを助けてくれます」「専門職員の方も笑顔でいつも優しいです」「家での過ごし方の悩み、食事やしつけなどについても親身になって相談に乗ってくれます」「職員は礼儀正しく思いやりがあります」などの声がありました。

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか

はい	17人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が94.4%、「無回答・非該当」が5.6%でした。自由意見には、「発熱をすると体温を何度か測り、様子を見て連絡をしてくれます」などの声がありました。

12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか

はい	15人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	2人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が5.6%、「無回答・非該当」が11.1%でした。自由意見には、「トラブルの話しはありません」などの声がありました。

13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか

はい	17人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が94.4%、「どちらともいえない」が5.6%でした。自由意見には、「子どもの意見を聞き、気持ちも切り換えられるように接してくれています」「まだ話せない子どもも多いですが、たくさん声かけをしてくれています」などの声がありました。

14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか

はい	17人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が94.4%、「いいえ」が5.6%でした。この質問に関連するコメントはありませんでした。

15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか

はい	17人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が94.4%、「どちらともいえない」が5.6%でした。自由意見には、「連絡帳は手書きですが、細かいニュアンスを絵で描いたり、出来事を詳細に書いてくれたりするので、とても安心します」「お迎え時に、今日どんなことがあったというのは必ず伝えてくれて、写真でも見せてくれるので、様子がわかって良いです」などの声がありました。

16. 利用者の不満や要望は対応されているか

はい	16人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が5.6%、「無回答・非該当」が5.6%でした。自由意見には、「問題にとっても真摯に対応をくださり、信頼できる園だと感じました」などの声がありました。

17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか

はい	14人	どちらともいえない	3人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が77.8%、「どちらともいえない」が16.7%、「無回答・非該当」が5.6%でした。自由意見には、「そのような場面がありませんでした」などの声がありました。

V 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）

※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-

カテゴリー1 リーダーシップと意思決定			
サブカテゴリー1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている			
評価項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している		実施状況
標準項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている		○
標準項目2	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている		○
評価項目2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		実施状況
標準項目1	経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている		○
標準項目2	経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している		○
評価項目3	重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		実施状況
標準項目1	重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている		○
標準項目2	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している		○
標準項目3	利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている		○
講評			
園が目指す方針について、職員及び保護者の理解が深まるよう丁寧に取り組んでいます			
園が目指している園目標、保育方針は、入園の際に保護者に配付する「保育園のしおり」に明示して周知しています。保護者には入園に向けた事前の個別面談で、しおりに基づき、安心・安全な保育を第一に、保護者が安心して子どもを預けられる保育園を目指していることを丁寧に説明しています。入園後も毎年度4月の園便りに園目標を掲載するなどして周知することで、共通認識を図っています。職員は長期勤続のベテラン層が多く、園目標及び保育方針は熟知していますが、年度初めには新たな気持ちで読み合わせをするなど相互に理解を深めています。			
園長は保護者及び職員と真摯に向き合い、風通しの良い職場づくりを大事にしています			
経営層（園長及び主任）の役割と責任は職務分担表で明示しています。法人本部からは、経理主任と事務局長が必要に応じて来園し、園と法人本部のスムーズな意思疎通を図っています。園長は安心・安全な保育の提供を実現するため、児童に関する事件や事故のニュースを職員会議で取り上げ、安全管理に対する意識を高くするほか、各クラスに入り職員や園児と同じ目線で声かけを行うなどリーダーシップを発揮しています。また、自ら保護者と真摯に向き合うことと、職員同士がコミュニケーションを取りやすい風通しの良い職場づくりを大切にしています。			
重要な決定事項は、職員及び保護者に迅速かつ丁寧に伝えるよう努めています			
重要な案件は、職員会議で話し合って決定します。経営層の人事異動など法人本部の承認が必要な案件は、職員会議で協議した内容を経理主任もしくは事務局長に伝え、最終的に理事会に稟議を上げて決定します。決定事項は決定経緯を含め、職員会議、緊急打ち合わせを開き、早急に全職員に周知しています。保護者に対して重要案件を伝える際には、速やかに保護者に情報提供できるよう文書掲示や一斉メールを配信するなどしています。内容によっては園長が直接、口頭で保護者に伝えています。なお、今年度の園名変更にあたっては丁寧な説明に努めました。			

カテゴリー2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリー1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			
評価項目1	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		実施状況
標準項目1	利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		○
標準項目2	事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		○
標準項目3	地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		○
標準項目4	福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している		○
標準項目5	事業所の経営状況を把握・検討している		○
標準項目6	把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		○
サブカテゴリー2 実践的な計画策定に取り組んでいる			
評価項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		実施状況
標準項目1	課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している		○
標準項目2	中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		○
標準項目3	策定している計画に合わせた予算編成を行っている		○
評価項目2	着実な計画の実行に取り組んでいる		実施状況
標準項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		○
標準項目2	計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○
講評			
<p>保護者の要望はさまざまな手法を用いて把握し、可能な限りできることを実践しています</p> <p>保護者の意向は連絡帳や個人面談、保護者会などで、直接、意見・要望を聞き、ニーズを把握しています。また、玄関にはご意見箱「ほっとボックス」を設置して、非対面でも声を上げやすい工夫をしています。さらに、拡大運営委員会では保護者の代表から要望や声を吸い上げています。保護者の声は誠実に受け止め、できることを協議して実行しています。具体的には、コロナ禍において、園での子どもたちの様子を見たいという保護者の要望に対し、日常の保育の様子を撮影し、保護者限定で動画配信を行いました。保護者からは、大変好評を得ています。</p>			
<p>地域及び福祉全体のニーズを踏まえ、園ができることを前向きに協議し実践しています</p> <p>地域の福祉ニーズについては、公・私立園の連絡会や区主催の協議会に園長が参画して地域とのつながりを持ち、情報を収集しています。また、近隣の保育園との交流も積極的に行い、情報交換を行っています。現状では地域社会における子育て家庭に対し、サポートの必要性を把握しています。福祉事業全体の動向については、区の私立園長会に出席して情報を共有し、ニーズとしては育休中の保護者のサポート、保育士の人材不足、0歳児欠員の課題などを確認しています。これらを踏まえ、今秋より就労に限定しない柔軟な一時預かり保育を開始する予定です。</p>			
<p>実効性を高めるため、中期計画には基準となる取り組み時期を追記すると良いでしょう</p> <p>園の運営方針では、「共生」を目指して「地域を見守り、地域から見守られる保育園」など複数のビジョンを掲げ、それらを実現するための政策と主な取り組みを明示しています。運営方針を踏まえ、3年間の中期計画を策定し、課題と課題達成のための取り組み方針、及び課題達成度合いを測る数値目標を掲げています。また、運営方針及び中期計画と連動した単年度の事業計画を策定しています。今後に向けて、中期計画については課題と取り組みに加え、おおよその取り組む時期を明示すると、単年度の事業計画との連動性がより明確になるでしょう。</p>			

カテゴリー3 経営における社会的責任			
サブカテゴリー1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			
評価項目1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		実施状況
標準項目1	全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		○
標準項目2	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○
サブカテゴリー2 利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			
評価項目1	利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		実施状況
標準項目1	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○
標準項目2	利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○
評価項目2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		実施状況
標準項目1	利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○
標準項目2	虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○
サブカテゴリー3 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
評価項目1	透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		実施状況
標準項目1	透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○
標準項目2	ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○
評価項目2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		実施状況
標準項目1	地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○
標準項目2	事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している		○
標準項目3	地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○
講評			
<p>職員が守るべき法・規範・倫理については、国内外の研修を通じて理解を深めています</p> <p>職員として守るべきことは、マニュアル「保育士の心得」を全職員に配付して周知しています。マニュアルには「身だしなみ」「ことば」などのほか、年齢ごとにまとめた「具体的な動き及びかわり方」の項目には、対応方法を詳細にわかりやすく記述しています。また、守るべき法や規範については、区主催の研修に参加して学んでいます。さらに、時に応じて保育関連団体の子ども人権擁護に関するセルフチェックシートを活用し、定期的に自身の保育を振り返るとともに、職員同士で声をかけ合い、話し合う機会を設けるなどして理解を深め合っています。</p>			
<p>オープンスペースと風通しの良い職場環境で、子どもへの適切な声かけを行っています</p> <p>保護者が利用できる苦情解決制度は、「保育園のしおり」に相談体制と連絡先を明示しています。相談窓口として、園内は園長及び主任、園外では法人内の大学関係者の専門家を設置しています。相談があった際は迅速に対応するよう努め、内容に応じて個人面談や保護者会等に対処策を説明します。職員による子どもへの不適切な言動については、複数担任制を取り、ワンフロアを仕切った保育であることから、常に職員同士が互いの言動について確認し合える環境になっています。また、虐待の予防・解決に向けては関係機関との連携体制を整えています。</p>			
<p>区内ネットワークなどに参画し、協働して地域の共通課題に取り組んでいます</p> <p>昨年度刷新したホームページを活用し、園の活動内容を写真でわかりやすく伝えています。法人全体の事業報告は法人ホームページで公開しています。園の専門性を生かした取り組みとしては、園舎外の掲示板に園便りを掲示し、いつでも身体測定ができることを伝えています。地域の一員としての役割を果たすために、区の園長会や区主催の子どもと家庭に関するネットワークへの参画、支援が必要な子どものケース会議への出席、近隣園との積極的な交流を行っています。なお、今秋より「だれでも通園制度」のモデル事業として0歳児を受け入れる予定です。</p>			

カテゴリー4 リスクマネジメント			
サブカテゴリー1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			
評価項目1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		実施状況
標準項目1	事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		○
標準項目2	優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		○
標準項目3	災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している		○
標準項目4	リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		○
標準項目5	事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		○
サブカテゴリー2 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			
評価項目1	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		実施状況
標準項目1	情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている		○
標準項目2	収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している		○
標準項目3	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		○
標準項目4	事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		○
講評			
<p>ヒヤリハットを記録して対策を検討し、園全体で事故防止につなげています</p> <p>園が目指すことの実現を阻害する恐れのあるリスクとして、第一に事故、第二に感染症、第三に侵入、第四に地震による災害、第五に風水害を挙げています。事故に対しては、ヒヤリハット記録を活用し、対応策を検討し周知しています。また、事故防止マニュアルを新たに作成しています。感染症に対しては、室内やおもちゃの消毒の徹底に努め、空気清浄機を設置して対策を講じています。さらに、保護者に感染症発生状況を連絡し、保健便りで感染防止対策を周知するなどして、園と保護者が協働して感染防止に努めることができるよう体制を整えています。</p>			
<p>事業継続計画は、感染症・食中毒と地震・風水害をそれぞれ想定して策定しています</p> <p>侵入に対しては電子錠や防犯カメラを設置して対策を講じています。風水害及び地震災害に対しては毎月の防災訓練を実施し、食料品、毛布、発電機などの備蓄品を定期的に見直しています。また、事業継続計画（BCP）を感染症・食中毒編、地震・風水害編のそれぞれについて策定しています。BCPには想定される被害や初動対応、BCP発動基準、BCP解除基準、事前対策及び被害発生後の流れを示しています。園長はBCPの職員への周知が今後の課題と捉えています。定期的な話し合いのもと役割分担の確認など、さらに理解を深めると良いでしょう。</p>			
<p>個人情報や機密事項は、適切な方法で収集、保管、廃棄して情報漏えいを防止しています</p> <p>園運営に関する機密情報は、施錠できるキャビネットで保管しています。情報の種類ごとに保管場所を決め、年度ごとにファイルを更新し、情報を活用しやすいよう整理しています。管理期間を終了した文書は、適切な方法で年度末に廃棄しています。園で使用するパソコンは、園長用と職員用に分け、それぞれにパスワードを設定して情報漏えいの防止に努めています。園で作成するファイルやフォルダーなどは、園内でのみアクセスできるように設定しているほか、防犯カメラの画像については規程を設け順守するなど、情報の適切な管理に努めています。</p>			

カテゴリー5 職員と組織の能力向上			
サブカテゴリー1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			
評価項目1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		実施状況
標準項目1	事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○
標準項目2	事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○
評価項目2	事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		実施状況
標準項目1	事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている		×
標準項目2	事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している		×
評価項目3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		実施状況
標準項目1	勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○
標準項目2	職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している		×
標準項目3	職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している		×
標準項目4	指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○
評価項目4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		実施状況
標準項目1	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている		○
標準項目2	就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○
標準項目3	職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○
標準項目4	職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○
サブカテゴリー2 組織力の向上に取り組んでいる			
評価項目1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		実施状況
標準項目1	職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○
標準項目2	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○
標準項目3	目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○
講評			
<p>人材確保と人材定着に向けて、多様な採用活動と柔軟な人員配置に取り組んでいます</p> <p>園が目指す理念を実現するために、必要な人材の確保に向けたさまざまな工夫を行っています。都の福祉人材関係機関のスカウト機能や人材派遣会社を活用して、人材紹介や保育士の派遣を依頼しています。また、法人内の短期大学にアルバイトの求人を掲載したり、卒業生同士のつながりを大事にして雇用・再雇用につなげています。ライフイベントなどによる退職後の継続就業を実現するため、法人全体で事業所をまたぐ柔軟な異動を可能としています。クラス担任は、本人の希望を踏まえ経験年数などのバランスを考えて、適材適所の人員配置に努めています。</p>			
<p>キャリアパスを明示し、体系的な人材育成計画と個人別育成計画の策定が期待されます</p> <p>「職員像および職員育成方針」には、保育士、サブリーダー、クラスリーダー、副主任、主任、園長の職層ごとに求められる人材像、役割や知識などを明記して周知しています。今後はこれを踏まえ、長期的な展望（キャリアパス）を明示することが望まれます。キャリアパスには、職層ごとの一般的な滞留年数や賃金レベル、求める具体的なスキルレベルなどを明示すると良いでしょう。また、キャリアパスと連動した人材育成計画の策定が期待されます。さらに「個人目標計画票」を充実させて個人別育成計画とし、長期的かつ継続的な育成が期待されます。</p>			
<p>ベテラン職員が多く、良好な人間関係の維持とチームワークを大事にしています</p> <p>園外研修では区主催の研修などに積極的に参加し、複数の近隣園とは相互に好事例を学び合っています。園内研修として今年度は、手作りおもちゃの作製やクラス内の環境設定について学びを深めています。職員の平均継続年数は10年以上とベテラン層が多く、今後、若手職員が入職した際のフォローアップ体制は整っています。現状では意見が出しやすい良好な人間関係を構築し、職員懇親会では弁当を支給するなど雰囲気づくりに努める一方で、他園との学びなどを通して園運営に新しい風を取り入れていくことも課題の一つであると園長は認識しています。</p>			

カテゴリー7 事業所の重要課題に対する組織的な活動		
サブカテゴリー1 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）	
前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）	前年度の重要課題として、園のホームページの新規開設に取り組みました。2023年4月より、園名を「日本音楽学校保育園」から「品川学藝保育園」に変更することを契機に、15年程前に立ち上げたホームページを刷新することにしました。旧ホームページは内容や写真が古く、タイムリーに必要な情報が掲載できていなかったこと、企画が古く十分な活用ができていなかったことも刷新の背景にあります。課題達成に向けて、ホームページ作成を手がけるライターと数回の協議を通じて、社会に伝えたいことや園のイメージを具現化し、色彩や写真、構成を決定していきました。協議には、園長、主任及び専任保育士が主に参加しましたが、職員全員の意見を吸い上げて反映しました。取り組みの結果、2022年10月に新しいホームページの公開を実現することができました。新しいホームページでは、園が大切にする「第二のおうち」のコンセプトが伝わりやすい温かい色彩を基調に、写真を多く掲載して園のイメージを伝えていきます。また、園の活動内容や情報を積極的に発信しています。今年度においても、更なる情報の発信と、在園児の保護者の利便性を高められるよう、ホームページの活用に取り組む方針です。	
評語	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
	取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
	検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
【講評】 ホームページ刷新への取り組みにあたり、デジタル分野の知識や活用方法についてアイデアが豊富な職員の意見を丁寧に聞くようにしました。その副次的効果として、関わった職員は、自分の意見を取り入れてもらえたり、得意分野を生かしたりしたことで自信が持て、保育に関しても以前より積極的に意見を出せるようになりました。ホームページに掲載する写真については、保護者から、撮影する機材によっては、写真を撮った場所が特定されるリスクもあるとの指摘を受け、新たな気づきとリスク管理につなげることができました。ホームページの活用方法としては、園の情報を発信するだけでなく、在園児の保護者や見学者の利便性を高めるとともに、園の業務を効率化するために、各種手続きに必要な様式をホームページからダウンロードできるよう工夫しました。保護者に直接書類を手交する必要がなくなり、職員と保護者の双方にとって手続きに要する時間の短縮化が図られました。ホームページの見やすさと、タイムリーに情報を掲載できるようになったため、ホームページを見て申し込む見学者も増えました。在園児の保護者専用のページや人材募集を掲載するなど、引き続きさらなる活用を検討しています。		
評価項目2	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）	
前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）	前年度のもう一つの重要課題として、事業継続計画（BCP）の見直しと充実を掲げました。数年前に、学校法人全体のリスクマネジメント対策の一環として園のBCPを策定しました。しかし、形式的なマニュアルではなく、園独自の実情を反映した実効的な内容にすることが課題と捉え、重要課題に挙げています。課題達成のための具体的な取り組みとして、2022年9月に、園長、主任及び事務主任が主体となって、現状の備蓄リストを作成して見える化し、備蓄品の見直しを行いました。備蓄品の種類の適正性、消費期限の確認、不足品の買い足しを行いました。また、これまでBCPは「地震編」のみを策定していましたが、新たに「感染症・食中毒編」と「地震・風水害編」を追加して策定し、併せて「地震編」の見直しも行いました。取り組みの結果、園の実情に即したBCPに改良することができました。また、年度末から今年度の初めにかけて、区から提供された資料や動画を視聴して、策定したBCPの実効性を検証しました。今後の方向性として、BCPを有効に機能させるためには、園全体の共通認識が不可欠と考え、今年度は職員に十分に周知し、理解を深める取り組みを進めていく方針です。	
評語	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
	取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
	検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
【講評】 BCPを見直すにあたっては、園長、主任及び事務主任が主体となって進めましたが、検討事項は職員会議で報告・協議し、現場の意見を反映しながら遂行しました。備蓄品の見直しにあたっては、在籍する子ども一人ひとりの状況を踏まえ、食物アレルギーの対応食品のほか、外国籍の家庭などにも対応した、だれもが食べられるような食品にも配慮し、ハラール食も加えました。また、冬季に向けて毛布を買い足すなど充実させるとともに、よりプライバシーが確保できるようプライバシーテントもいくつかそろえています。これらの取り組みを通して、更新後の備蓄品リストを一覧表にして職員にも周知しました。課題達成に向けた取り組みを進める中で、危機管理に対する職員の意識は確実に高まっていますが、園長は、BCPへのさらなる理解が必要と考えています。毎月行っている防災訓練で、避難経路や手順はしっかり熟知していますが、BCPと関連付けた動きや理解が十分ではないと考え、効果的な周知方法を検討しています。そこで、今年度以降は園内研修でBCPの読み合わせを行い、非常時における職員一人ひとりの役割を確認するとともに、BCPに沿った実地訓練の実践を計画しています。		

VI サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6）

カテゴリー6 サービス提供のプロセス			
サブカテゴリー1 サービス情報の提供			
評価項目1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		実施状況
標準項目1	利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		<input type="radio"/>
標準項目2	利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		<input type="radio"/>
標準項目3	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		<input type="radio"/>
標準項目4	利用希望者等の問い合わせや見学の見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している		<input type="radio"/>
講評			
<p>園見学者に配付するパンフレットをはじめ、園のしおりなどで情報を提供しています</p> <p>園のパンフレットのトップには「電車の見える小さな保育園」を記載し、園の概要や方針、園目標、一日の流れ、年間行事などを紹介しています。園のイメージが伝わるパンフレットに仕上げ、園見学者などへ配付するほか、区の担当課に常置し、窓口を訪れた保育園の入園を検討している区民も受け取れるようにしています。入園が決定した保護者に向けては「保育園のしおり」を配付し、パンフレットの記述をより具体化させ、保護者が知りたい情報、園からのお願事項や持ち物の紹介、主な保育内容、散歩マップなど、園生活に関する事柄を明記しています。</p>			
<p>園名変更に伴い改良したホームページからは、園の温かな雰囲気伝わってきます</p> <p>法人が運営する教育施設の名称変更に伴い、当園の園名も今年度より新しく生まれかわっています。それによりホームページも昨年度リニューアルを行い、より見やすくわかりやすいものに刷新しています。園内の写真をはじめ子どもの写真も多く用い、その表情から園の雰囲気や様子が伝わり、「目指すあいうえお」の紹介などからは温かな園の思いが伝わってきます。今後はサイトを通して行事のお知らせを地域向けに発信するなど、さらなる充実を目指しています。なお、園の外掲示板では、行事の予定や園内で計測ができることを近隣住民に知らせています。</p>			
<p>丁寧な園見学の対応に努め、その時間では得られない活動の様子は写真で説明しています</p> <p>園見学や問い合わせは、個別の状況に応じて対応しています。見学については、現在は園内に入れる形を取り、各室への入室は禁止とし部屋の外側から様子を見てもらっています。園では14時半から30分程度の見学を提案していますが、見学者の都合に応じて個別に調整しています。主に主任が園内を案内し、配付するパンフレットを基に丁寧な説明に努め、見学者からの質問や簡単な子育て相談にも対応しています。また、より活動の様子がわかるよう、見学者向けのファイルを作成し、各行事の内容や日々の保育の様子を写真で伝えるなど工夫をしています。</p>			

サブカテゴリー2 サービスの開始・終了時の対応			
評価項目1	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		実施状況
標準項目1	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/>
標準項目2	サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/>
標準項目3	サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/>
評価項目2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		実施状況
標準項目1	サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/>
標準項目2	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/>
標準項目3	サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/>

講評

入園前には個別面談と健康診断を実施し、入園後の園生活へと生かしています

新年度の入園決定者に対しては、3月に入園前の個別面談を実施します。コロナ禍以前はこのほかに入園説明会も行っていました。面談を通してより丁寧に、時間をかけて一人ひとりに向き合えるこの方法を、今後も続けていく方針です。また、面談は保護者の都合に合わせて日時を設定し、面談者は保護者が提出する「入園までの生活状況」などに沿って、子どもの様子や保護者の意向を聞き取ります。面談の報告は後日職員間で共有し、情報は入園後の生活へと生かしていきます。そして、園医による健康診断は別日に設け、再度来園して受診してもらいます。

入園直後は子どもと保護者が安心できるよう、丁寧な対応と環境づくりを心がけています

入園直後は1週間を目安とした短縮保育の期間を設けています。その中で個別の状況に配慮し、1週間以上の期間となる場合もあれば、短時間で通常の保育時間になる場合もあります。子どもが安心できるタオルなどがあれば持参を求め、いずれも無理なく慣れるよう進めています。子どもはもとより、新しい生活が始まる保護者にも安心してもらえるよう、各家庭と連携を図り、園での様子や帰宅後の様子を伝え合う中で丁寧な対応を心がけています。今年度の新規入園は、1歳児数名のみの異例のスタートでしたが、その後少しずつ入園が続いている現状です。

2歳児クラスの年度末に卒園となり、温かく他園に送り出せるよう努めています

当園は0～2歳児を対象とした保育園です。3歳児クラスに移行する3月をもって子どもたちは転園し、温かく送り出すよう努めています。転園先は近隣の保育園などが多く、年度によっては系列の幼稚園へと入園する子どももいます。卒園や退園に際し、不安を抱く保護者や子どもの気持ちに寄り添い、必要に応じてその前後の相談にも対応しています。また、コロナ禍以前は卒園児にはがきを郵送するなどして運動会に招待していましたが、ここ数年は見合わせています。今年度の運動会では数年ぶりに招待状を送り、再会を喜び合いたいと園長は考えています。

サブカテゴリー3 個別状況に応じた計画策定・記録			
	評価項目1	定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	実施状況
	標準項目1	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○
	標準項目2	子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○
	標準項目3	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○
	評価項目2	全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している	実施状況
	標準項目1	指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	○
	標準項目2	指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○
	標準項目3	個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○
	標準項目4	指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○
	標準項目5	指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○
	評価項目3	子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している	実施状況
	標準項目1	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○
	標準項目2	指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○
	評価項目4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	実施状況
	標準項目1	指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○
	標準項目2	子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○
	標準項目3	子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○

講評

「園児票」や「育ちの記録」などにおいて、子ども一人ひとりの状況を把握しています

クラス別に設けた園児票ファイルには、入園時に保護者が提出する「園児票」のほか、園生活に必要な情報「入園までの生活状況」などの書類を収めています。また、各家庭や子ども一人ひとりの情報、既往歴や健康状態を記録し把握しています。これまでの児童票の様式を見直し、新たに園児票としたほか、定期的に記載する保育の経過記録は「育ちの記録」として別立てにしています。個人の状況によっては個別のファイルを作成するなどしています。このように定められた統一様式の記録により、関わる職員が共通認識のもとに日々の保育にあたっています。

全体的な計画は、見直しを持った指導ができるよう5歳児までの計画を策定しています

「保育の内容に関する全体的な計画」に基づき年齢別に各指導計画を作成しています。2歳児までを対象とした園ですが、見直しを持った指導ができるよう、全体的な計画には3～5歳児の養護と教育5領域のねらいも定めています。また、長期・短期それぞれの視点で計画を整理し、月案については個別の計画を重視した様式「個人別指導計画および保育経過記録」に改めています。一方、クラス全体の計画は月単位でなく週単位で具体的に記載できるよう改良し、今年度より運用しています。今後は、保育方針や年齢別保育目標などの文言の統一化が望まれます。

各種会議や申し送りノートなどを活用することで、職員間の情報共有を図っています

月1回の職員会議の前日にはリーダー会議を実施し、その時々連絡事項を園長と主任を含むリーダー職員で共有します。職員会議は、ほぼすべての正規職員が出席できるよう夕方以降に設定し、これにより話し合いを深め、職員一人ひとりの共通理解へとつなげています。月2回の各クラスの打ち合わせでは、主に週案の話題や現状、課題解決に向けて事例を持ち寄り話し合います。このように目的に応じて話し合う機会を作り、情報共有を図るとともに「事務連絡」「申し送り事項ノート」を活用し、日々の職員間の伝達や連携を図る仕組みを整えています。

サブカテゴリー4 サービスの実施		
評価項目1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	実施状況
標準項目1	発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○
標準項目2	子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○
標準項目3	子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○
標準項目4	特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○
標準項目5	発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつぎ等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○
標準項目6	【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	-

講評

さまざまな工夫によりコーナーを設け、子どもたちが主体的に遊べる環境を整えています

2階施設の園内は、1階が0歳児室、2階が1、2歳児の保育室です。1、2歳児のスペースは広々としたワンフロアを中央で仕切って活用し、年齢ごとに活動しています。ままごとやドレッサーのコーナーをはじめ、絵本や乗り物、机上などの各コーナーを常設し、子どもたちの遊びへの意欲や興味を引き出す工夫をしています。紙パックで作った椅子やテーブルのほか、紙パック製の電車やスマートフォン、レストランごっこが膨らむ手作りメニューやドリンクバーも人気があるなど、手作りおもちゃを豊富にそえて、主体的に活動できる環境を整備しています。

朝夕の時間帯は異年齢の子どもが共に過ごす中で、良い影響を受け合う姿が見られます

日中は基本的に年齢別で過ごし、室内遊びや散歩もクラスごとに出かけることが多い状況です。そのような中、行事をはじめ朝夕の合同保育は、異年齢の子ども同士が関わって遊べる時間帯としています。共に過ごすことで年上の子どもを意識したり、年下の子どもを思いやる気持ちが芽生えたりするなど、そのような姿がやりとりの場面で見られます。職員もさまざまな経験を子どもたちにしてもらいたいと考え、人との関わりや物への興味が持てるよう、そして相手の思いを大切にできる心が育つよう、時に応じて見守り適切な援助ができるよう配慮しています。

子ども同士のトラブルについて、まずは双方の気持ちをくみ取ることが大切にしています

発達の過程で見られる子ども同士のトラブルについては、互いの気持ちをくみ取ることが大切にしています。言葉で相手に伝えることが十分でない年齢であることから、時にかみつぎに発展することもあります。職員が気持ちを代弁し、状況に応じ環境設定の改善へとつなげています。また、園の年長児である2歳児を、他園へと送り出すにあたって大切にしていることは、物おじせず、卒園したのちも困ることのないよう人に伝える力、聞く力を少しでも身につけてほしいと考えています。年度後半には卒園に向け、職員数をあえて調整するようにしています。

評価項目2	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	実施状況
標準項目1	登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○
標準項目2	発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○
標準項目3	休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○
標準項目4	降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○

講評

登園時は保護者から家庭での状況や健康状態を聞き取り、丁寧な対応に努めています

登降園時の受け入れと引き渡しについては、コロナ禍において玄関での対応としていましたが、現在は保護者も園内に入れる形を取っています。ただし、全クラスともに保育室の入室はせず、部屋の前までとしています。朝はその日の担当職員が受け入れを行い、子どもと保護者に笑顔で挨拶することを心がけ、保護者へは口頭で子どもの様子を聞き取ります。子どもにも声をかけ、表情や機嫌、健康状態などを確認します。なお、保護者からの申し送り事項は、「受け入れ時連絡事項」に記入するほか、関わる職員同士が口頭で共有して一日の保育を開始します。

基本的な生活習慣の大切さは絵本などで繰り返し伝え、発達に応じた方法で援助しています

排泄や着脱、食事面などの基本的な生活習慣の自立に向けては、日ごろから保育の中で、紙芝居や絵本、パネルシアターを通してその大切さを伝えていきます。また、連絡帳や登降園時の対話において、家庭での様子を聞き取りながら、保護者と連携して進めています。排泄の自立に向けては、子どもの発達に応じて無理なく行えるようにしています。友だちの様子を見ながらトイレに関心を持つ子どもの姿も見られ、互いに影響を受け合い、少しずつトイレで排泄できるよう援助しています。休養についても、子ども一人ひとりの生活リズムを見ながら対応しています。

その日の子どもの様子は口頭で丁寧に伝えるよう心がけ、連絡帳にも記載しています

連絡帳は今年度より複写式を導入しています。「乳児用連絡票兼個人記録」により、これまで重複して作成していた日々の個人記録を連絡帳と一本化し、業務の負担軽減につなげています。また、小規模園の特性により全職員が子ども一人ひとりを把握し、特に2階の1、2歳児では、互いのクラスを各職員が意識し合うことを大切にしています。降園時には、その日の子どもの様子を担

任のみならず、時間帯によっては当番職員でも口頭で伝えるよう努め、日々の連絡帳でも丁寧な記載を心がけています。玄関でも活動の写真を掲示して知らせる日もあります。

評価項目3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	実施状況
標準項目1	子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○
標準項目2	子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○
標準項目3	子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉（発声や喃語を含む）や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○
標準項目4	子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○
標準項目5	戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○
標準項目6	生活や遊びを通して、子どもがまじりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○

講評

子どもたちの興味に応じて環境改善を図り、より遊びが発展するよう援助しています

各保育室では年齢に応じた遊びが展開できるよう、さまざまな工夫を施しています。0歳児室では落ち着いて過ごせる環境を提供するとともに、遊びを通して発達を促すことを視野に入れ、紙パック製の積み木や電車、空き容器を利用したジュースや引っぱると布が出てくる手作りおもちゃなどを豊富に用意しています。1、2歳児室でも同様にコーナー保育を取り入れ、いずれも子どもの興味に応じて内容を変えるなど都度の環境改善を図り、より遊びが膨らむよう援助しています。このように、子どもの自主性の尊重と遊び込める時間と環境を大切にしています。

応答的なやりとりの中で、言葉の獲得や子どもたちの穏やかな気持ちへとつなげています

0～2歳児は一生の中でも大事な時期であると園長は考え、その子どもたちを預かる園として重責を感じています。子どもたちは日々いろいろなことを吸収するとともに、こちらへも発信をしていくことから、常に気持ちを受け止め共感し、かつ肯定し、健やかに過ごせることを大切にしています。その中で職員は子ども一人ひとりと向き合い、喃語や片言で話そうとする思いを受け止め、言葉にして返すなど応答的なやりとりを心がけています。また、年齢が上がるとともにルールや決まり事なども伝え、少しずつ見通しが持てるような働きかけも行っています。

外遊びを通して体を動かすほか、外部講師による製作遊びや英語なども取り入れています

外遊びを多く取り入れ、天気の良い日や気候の良い時期は毎日散歩に出かけています。園周辺には自然豊かな公園もあり、四季の移り変わりを感ぜられる遊びも取り入れています。近隣の公園だけでなく、夕方の時間帯は同法人の高校の校庭や幼稚園の園庭でも遊べ、園内で飼っているカメと散歩に行くこともあります。また、2歳児クラスを中心に、月1回の製作遊び「べんちゃんとおそぼう」では動くおもちゃなどを作るほか、隔月の外国人講師による「英語でおそぼう」では、歌やダンスを通して楽しく英語に触れ、いずれも子どもたちに喜ばれています。

評価項目4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	実施状況
標準項目1	行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○
標準項目2	みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○
標準項目3	子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○

講評

工夫を重ねて行事を開催し、保護者と共に子どもの成長を喜び合う機会としています

ここ数年はコロナ禍により中止や縮小となった行事もあった状況下で、その時々に応じてできることを工夫し開催できたと園長は振り返ります。行事は0～2歳児の子どもたちが無理なく楽しめるよう提供し、保護者には普段の子どもの様子を見てもらい、共に成長を喜び合う機会としています。保護者参加の行事には、「運動会」「小さな音楽会」があり、運動会は系列高校の校庭で行い、今年度は絵本を題材にした競技などを行う予定です。12月の音楽会は、今年度も動画配信での開催をすでに決定し、子どもたちの日ごろの音楽遊びを見てもらう予定です。

保護者が参加する行事とともに、さまざまな季節行事を子どもたちは楽しんでます

保護者参加の行事のほか、「七夕」「ミニミニまつり」、クリスマスにちなみ「お楽しみお食事会」や「新年おめでとう会」「豆まき会」「ひなまつり」などの季節行事もあります。その中で日本の伝統行事なども知らせています。今年度9月のミニミニまつりは、ヨーヨー釣りや金魚すくいなどを楽しんだほか、敬老の日になんでは、染め紙のコスモスなどで制作したカレンダーを祖父母にプレゼントしています。ハロウィンでは仮装して近隣を回り、地域の人と触れ合う予定です。また、誕生会は誕生日当日のおやつ時間帯に一人ひとりをお祝いしています。

評価項目5	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	実施状況
標準項目1	保育時間の長い子どもが安心して、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○
標準項目2	保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○

講評

朝夕の保育では子どもの人数などに配慮し、安全に過ごせる環境を提供しています

7時30分から19時30分までが開所時間ですが、現在は8時ごろから少しずつ登園が始まる一方、19時前には最終降園となる日が多い状況です。夕方以降も引き続きクラス単位で過ごし、思い思いの遊びを子どもたちは楽しんでいます。日によって、あるいはクラスによっては夕方も系列の高校や幼稚園の校庭及び園庭で外遊びを楽しんでいます。時間の経過とともに降園し、子どもたちの人数も少なくなることで、18時以降は1階の保育室で合同保育となります。このようにして、子どもたちが安心して安全に過ごせるよう環境設定などに配慮しています。

合同保育では好きな遊びを楽しめるよう設定し、くつろげる環境も大切にしています

昨年度より早朝保育の非常勤職員を配置しています。これにより正規職員は通常の保育時間にそろうことができ、体制的にも働き方改革につながっていると職員から歓迎されています。職員だけでなく、子どもたちも同じ職員が関わることで安心感につながっています。一方、18時以降の合同保育では、パズルやぬり絵、シール貼りなどの机上遊び、少ない人数ならではのパネルシアター、大型絵本で読み聞かせを行うなどしています。このように好きな遊びを安心できる職員との関係性の中で楽しみ、遊びの設定はもとよりくつろげる環境にも配慮しています。

評価項目6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	実施状況
標準項目1	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○
標準項目2	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○
標準項目3	子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○
標準項目4	食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○
標準項目5	保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○

講評

給食は1階のランチルームで摂り、みんなで楽しく食べる雰囲気づくりを心がけています

1、2歳児は1階のランチルームで給食を摂ります。調理室も近いことから子どもたちが食べている様子は調理職員にも把握しやすい状況です。園では委託業者による給食提供を行い、業者の栄養士が献立を作成します。子どもたちの喫食状況の共有と、日常的に職員と連携を図ることで次回の献立に生かしています。また、各年齢や月齢に合った木製のテーブルと椅子を用意し、安定した姿勢で食事ができるよう配慮するとともに、食事は楽しく食べることを大切にしています。ランチルームには野菜やくだものを装飾するなど、雰囲気づくりにも配慮しています。

食物アレルギーの対応食については、細心の注意を払い提供できるよう努めています

0歳児などの未食の確認は、連絡帳に一覧表を貼付して家庭と連携しながら進めています。食物アレルギーの対応食については、調理から喫食後まで、細心の注意を払い提供しています。現状ではベテランの職員が多く、日常的なこととして対応していますが、今後は園独自の提供手順のフローを作成できると良いでしょう。また、食育便りでは旬のレシピ紹介、献立表内には「ミニ給食だより」で食の情報を掲載していますが、情報以外にも給食提供にあたっての園の方針を「保育園のしおり」などで示し、今後に向けて広く保護者に伝えられると良いでしょう。

野菜の栽培を中心に年齢に応じた食育活動を取り入れ、食への関心を育てています

食育の取り組みについては、数種類の野菜の栽培を行っています。今年度は、枝豆やきゅうり、ミニトマト、オクラなどを2階のテラスで育て、これからの季節は豆苗やほうれんそうなどの栽培を予定しています。野菜の栽培に詳しい保護者からのアドバイスをもらいながら進め、現在は玄関付近でさつまいもの生長が見られ、散歩時はもとより登降園時の親子の会話にもつながっています。収穫後は子どもたちと一緒にメニューを考え、食べることを楽しむ予定です。このほか、きのこさきや白菜ちぎり、2歳児は年明けに恒例のピザトースト作りを行う計画です。

評価項目7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	実施状況
標準項目1	子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○
標準項目2	医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○
標準項目3	保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○

講評

病気の予防と安全な遊び方は、年齢に応じた方法でわかりやすく知らせています

「年間保健計画表」に基づき、日ごろから子どもたちには年齢に応じた方法で病気やけがから身を守る大切さを伝えています。健康面では0歳児からの手洗いはじめ、2歳児クラスの後半からは各自のコップでうがいが行えるよう働きかけていきます。このほか、けがの回避など安全面にも気を配り、室内や園外では危険のないよう遊び方や交通ルールなども子どもたちにわかりやすく知らせています。さらに「防災対策年間指導計画」を作成し、いざという時にも対応できるよう、毎月の避難訓練の際には約束事「おかしも」の話などをして一緒に行っています。

子どもへの働きかけとともに、職員も安全な環境を提供できるよう努めています

保育中のけが防止に向けては、日ごろから子どもたちに働きかけるとともに、職員も適切な環境整備に留意し、子どもたちの健康と安全を守っています。万一事故が発生した際には、医療機関への受診と事故報告書に記録し、再発防止に努めています。けがが発生した場合には保健日誌に記入し、「ヒヤリハット報告書」も整備しています。今年度9月に予定していた法人全体で行う「AED講習」は今後時期を見て実施する考えです。このほか今後は、嘔吐処理の方法やけがの処置法、各感染症などを学び合う機会を計画的に実施できるとさらに良いでしょう。

園医をはじめ保護者との連携により、園全体で子どもたちの健康を守っています

月1回の健康診断の際やそれ以外でも園医とは連絡を取り合うなど、いつでも相談できる体制を作っています。保護者に対しては「保育園のしおり」において、生活リズムや清潔習慣の大切さ、乳幼児突然死症候群についての情報とともに、保健に関する園からのお願い事項なども知らせています。さらにはタイムリーな保健の話題は「えんだより」「ほけんだより」でも伝え、感染症が発症した際には掲示で注意喚起を図っています。園便りには毎月避難訓練のコーナーを設け、非常時に備えた園の取り組みと訓練の際の子どもたちの様子を保護者に届けています。

評価項目8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている	実施状況
標準項目1	保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○
標準項目2	保護者同士が交流できる機会を設けている	○
標準項目3	保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○
標準項目4	子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○
標準項目5	保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○

講評

保育参観及び参加日を設け、園での子どもの様子を見てもらう機会を作っています

保護者会は年2回開催しています。今年度4月の保護者会は、コロナ禍によりここ数年同様、書面開催として資料を配付しています。各クラスの一年間のテーマや思いを掲載し、その年齢の子どものお育てなども伝えています。なお、2月の保護者会については、昨年度は数年ぶりに対面開催をしたことで、今年度もその方向で予定しています。また、1歳児の保育参加は5月に、0、2歳児は6月に保育参観をそれぞれ行っています。さらに、今年度秋には2歳児クラスが行う「英語であそぼう」の参加日を設け、保護者と一緒に英語を楽しむ機会を計画しています。

職員の積極的な声かけと、保護者が話しやすい雰囲気づくりを心がけています

職員室が玄関付近ではなく異なる階にあることで、保護者の送迎時にはできる限り園長は1階に上がるなどして、保護者への挨拶とコミュニケーションが図れるよう努めています。このように、園長はじめ主任は積極的に保護者に声をかけ、信頼関係が深まるよう心がけているほか、保護者からもその人柄を称賛する声、考え方に賛同する声なども聞かれています。また、成長を感じたこと、子どもが頑張っていた様子などをできる限り詳細に伝えられるよう、職員も保護者との対話を大切に、小さなことでも気軽に相談してもらえる雰囲気づくりを心がけています。

園便りをはじめ保育の様子を写真で掲示して紹介するなど、保育の透明性を図っています

日々の連絡帳のほか、玄関などには写真で保育活動の様子を知らせるとともに、動画共有サービスを活用して年に数回の配信をコロナ禍より継続しています。また、毎月発行する園便りには、園長の考えやその時々のお思いを掲載し、各クラスの様子や目標なども伝えています。運動会後の保護者アンケートの内容は今年度も園便りに原文を載せ、紹介する予定です。このように保育内容のみならず、保護者の感想なども共有し園の透明性を高めています。コロナ禍により保護者間の交流が減少傾向にある中で、今年度はその機会を増やしていけたらと考えています。

評価項目9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	実施状況
標準項目1	地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○
標準項目2	園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○

講評

地域にあるさまざまな資源を活用し、子どもたちの豊かな経験へとつなげています

日常的に取り入れている散歩では、自然豊かな場所など園周辺のさまざまな公園へと出かけ、その際には道行く近隣住民に声をかけてもらうなど交流を重ねています。昨年度オープンした交流施設のキッズスペースや、児童センターなども活用する機会を増やしていき、コロナ禍により見送っていた近隣の図書館へも遊びに行きたいと考えています。さらに、食育の取り組みとして「きのこさき」などを繰り返し行ったのち、最終的には自分たちできのこを買いに商店での買い物体験を行っていく考えです。このように地域資源を活用し、活動の幅を広げています。

他園の園児や法人内の生徒など、園以外の人々と交流する機会を積極的に作っています

2歳児クラスでは、同年齢や年上の子どもたちと関わる機会を提供すべく積極的に他園との交流保育を進めています。公立園2園と連携を図り、今年度はすでに複数回当該園に遊びに行き、園庭での水遊びなどを楽しんでいます。以前のハロウィンでは高齢者施設へも訪問し、歌を披露するなどしていましたが、今年度も近隣の店舗や歯科医、卒園児宅を回る予定です。また、法人内の高校からは部活動の一環として生徒が園に遊びに来るほか、短期大学からは保育学生が実習で来園しています。系列幼稚園の園児との交流も今後少しずつ再開したいと考えています。

サブカテゴリ-5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
	評価項目1	子どものプライバシー保護を徹底している	実施状況
	標準項目1	子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○
	標準項目2	子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○
	評価項目2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	実施状況
	標準項目1	日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○
	標準項目2	子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○
	標準項目3	虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○

講評

個人情報の取り扱いや提供については、同意書において保護者に確認しています

子どもの写真や氏名は、日常の保育や行事、園便りなどで使用する旨を「個人情報利用・提供のお願い」で説明し、保護者に同意を確認しています。リニューアルしたサイト上の写真掲載についても昨年度同意を得ています。また、保育の透明性を高めるための動画配信をコロナ禍以降も折に触れて行い、子どもたちの様子を伝えています。その際の同意はその都度行っていますが、今後もこの取り組みを継続するのであれば、当該同意書にその内容を盛り込むほか、園活動の映像など保護者個人のSNSに投稿する際の注意事項についても明記すると良いでしょう。

日ごろから着脱や排泄面では、子どものプライバシーに配慮した対応を心がけています

夏場の水遊びは系列高校の校庭で行っています。徒歩数分の距離にあり、水遊び後は着衣のまま帰園し、園内でシャワーや着替えなどを行います。日ごろの着脱や排泄においても、子どものプライバシーに配慮した対応に努め、0歳児のおむつ替えは、カーテンを設置した所定の交換台で行っています。1歳児などに対しても、保育室の隅におむつ交換のスペースを設け、目隠しをするなどして、周りの子どもたちからも見えにくい工夫をしています。また、園児用トイレは1歳児も使用する場合がありますが、2歳児室の隅にあるため構造上見えにくい状況です。

子ども一人ひとりの気持ちを受け止め、安心できる関わりを大切にしています

子ども一人ひとりの生活リズムに配慮するとともに、発達や気持ちに寄り添った関わりを園全体で心がけています。普段の保育活動の中では、午前の睡眠が必要な子どもへの対応などを含め、例えば「散歩に行かず、室内で遊んでいたい」などの要求に対し、子どもとのやりとりの中で気持ちを受け止め、他クラスの職員と一緒に遊んで待つなど、可能な限り体制を整え受け入れています。このように、子ども一人ひとりの気持ちや行動を尊重し、子どもが安心できる人的環境を大切にするとともに、保護者の価値観などに対しても傾聴する姿勢で対応しています。

サブカテゴリ6 事業所業務の標準化		
評価項目1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	実施状況
標準項目1	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○
標準項目2	提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○
標準項目3	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○
評価項目2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	実施状況
標準項目1	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○
標準項目2	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○

講評

保育に必要なマニュアルを多数整備し、業務の標準化を図っています

保育業務に必要なさまざまなマニュアルを整備しています。「保育士の心得」をはじめ「水遊び・沐浴」「散歩」「保護者・保育参加・個人面談」「行事」の手順書など、一つ一つの保育場面や内容に対応したわかりやすいマニュアルです。そのほか保健マニュアルと食物アレルギーの各ファイルもあります。比較的ベテランの職員が多いことで、マニュアルを活用せずとも業務の遂行が可能な状況です。今後に向けては若手職員が入職する将来を踏まえ、ファイル内の整理とマニュアル類の見直し、作成や改訂年度の記述ほか、より活用しやすい工夫が望まれます。

既存のヒヤリハットマップのほか、新たに事故防止マニュアルを作成しています

「保育士の心得」には職員として必要な、身だしなみや言葉、大切にしてほしいことなどを明示しています。各年齢に応じた職員の具体的な動きや関わり方など、詳細に記載したマニュアルです。今年度新たに整備したマニュアルとしては「事故防止マニュアル」があります。一日の流れを時系列にして、その場面ごとの配慮事項を示すとともに、事故発生時のフローも作成しています。また、既存のヒヤリハットマップは園内外それぞれにおいて作成し、例えば公園内など低年齢の子どもにはやや危険と思われる箇所や配慮点を写真とコメントで表示しています。

他園での交流研修などで得た学びや気づきを、明日の保育へと生かしています

職員会議では各クラスの子どもの様子を出し合い、月の反省とともに次月のカリキュラムの共有や各行事の話し合いを行っています。時に応じ研修報告の時間を取り、6月には水遊びや食事場面での事故防止の配慮点と応急処置の方法などを確認し合っています。また、複数の近隣保育園との交流研修を実施し、他園の保育環境や手作りおもちゃなどを学び、その気づきから日々の保育につなげています。さらに園長は、危機管理への職員の意識づけを図ることを園の課題とし、職員の浸透を目指すことでさらなる保育の質向上につなげたいと考えています。